

令和6年度普及活動成果集



共に歩み、切り拓く京築農業の未来

 福岡県京築普及指導センター

令和7年3月

表紙写真の説明

キウイフルーツの現地調査
(キウイフルーツの樹勢強化に向けて
現地試験を実施しました)

ケイトウの収穫調査
(暑熱時作業を省力化するための
現地試験を実施しました)

水稲講習会
(新人普及職員の講習会
デビューです)

はじめに

京築地域の農業者並びに関係機関の皆様には、日頃より普及指導センターの活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

令和6年度は、春先の長雨や梅雨明け以降の猛暑など、気候変動の影響により、水稻や麦、大豆をはじめ果樹や野菜など多くの品目で収量や品質が低下しました。

また、農業者の高齢化や減少により、これまで地域農業を支えてきた集落営農組織を担うオペレーター等の不足や園芸産地の規模縮小といった課題が顕著になってきております。

気候変動対策は、農業者やJA等からの聞き取りにより低収・品質低下の要因を分析し、影響緩和のための方策を見出すべく、早急に取り組を進めております。園芸振興や水田農業の担い手確保・育成対策については、モデル地域を設定し、解決の糸口となる取組を行うことができました。

このほか、園芸産地の新たな担い手を確保するため、就農希望者が国の就農準備資金を受給しながら栽培技術を学ぶことができる研修体制（トレーニングファーム）をJAや各市町、農業委員会との連携により整備したところであります。

本書では、上記の取組に加え、農業者や関係機関の皆様との連携による普及活動の成果を取りまとめております。ご一読いただければ幸甚に存じます。

現地には、さらに多くの問題が山積しておりますが、普及指導センターは常に前を見据えて、一つでも多くの課題解決に努めてまいります。

引き続き、普及活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年3月

行橋農林事務所 京築普及指導センター

センター長 橋本 一郎

目次

はじめに
目次

1 普及活動の主な成果

次世代の農業をけん引する担い手の確保・育成	1
元気な農業の町・築上町	2
需要に応じた転作作物の安定生産	3
夏秋ナスの担い手と生産力強化	4
京築特産果樹の樹勢改善による収量向上	5
ケイトウの生産振興	6
畜産経営の安定化	7

2 管内の動き（トピックス）

.....	8
-------	---

3 普及指導員調査研究結果の概要

.....	11
-------	----

4 現地実証・展示ほ結果の概要

.....	12
-------	----

5 各種表彰の紹介（国、県）

.....	13
-------	----

6 参考資料

(1) 令和6年の気象および農業生産の概要	16
(2) 現地活動情報一覧	20
(3) 普及指導センターの活動体制	22

次世代の農業をけん引する担い手の確保・育成

—新規就農者の確保・定着—

■課題化の背景

全国的に農業者の高齢化による担い手の減少が深刻な問題となっています。

京築地域も担い手の減少が問題となる中、産地や農村の維持・発展のため、新規就農者の確保と定着に取り組みました。

■活動内容

1 新規就農者の確保

「就農相談会in京築」を管内の関係機関で組織する京築地域農業・農村活性化協議会担い手部会の主催で開催しました。

開催にあたっては、市町及びJAの広報誌やホームページ、駅構内や商業施設でのポスター掲示によって広く周知するとともに、高等技術専門学校(農業技術支援センター)、農業高校、農業大学校等にも周知を行い相談者の募集を行いました。

2 新規就農者の定着支援

就農後5年以内の新規就農者を対象に、ベテラン農業者との交流と営農意欲向上を目的とした「新規就農者のつどい」を開催し、就農者の定着を促進しました。

また、新規就農者を対象に、園芸品目の栽培技術とパソコン簿記の習得を目的とした「営農基礎講座」を開催しました。

■主な成果

1 新規就農者の確保

「就農相談会in京築」での就農相談や個別の就農支援により、令和4～6年度の3年間で、新たに45名が就農しました。

2 新規就農者の定着支援

「新規就農者のつどい」や「営農基礎講座」などの研修会開催や個別巡回指導により、新規就農者の経営目標達成を支援した結果、3年間で就農した45名全員が、農業を継続しています。



新規就農相談会in京築



新規就農者のつどい

■今後の取組

本年度、県が認定する研修機関を設立し、管内の就農希望者が、就農準備資金を受給して就農地で研修を受講できる体制を整備しました。今後も、さらに就農支援体制の充実を図り、新規就農者の確保を促進するとともに、経営力向上に向けた支援を行っていきます。

(地域振興課、園芸畜産課)

元気な農業の町・築上町

—持続する地域農業へ—

■課題化の背景

農業者の高齢化に加え、新型コロナウイルス感染症や市場への供給過剰等の影響で京築地域における主な露地野菜であるレタスやブロッコリー等の価格が低迷していました。

また、水田農業の主要な担い手である集落営農組織も役員やオペレーターの高齢化で深刻な課題を抱えていました。

このため、普及指導センターでは当管内の中核的な農業地域である築上町をモデル地域に設定し、園芸振興や水田農業の担い手確保を推進しました。

■活動内容

露地野菜生産者の品目転換を推進するため、既存品目と比べ経営改善が見込まれるか、労力競合がないニンジン、白ネギ、ホオズキの3品目を選定し改善提案を行いました。

また、農福連携による労力支援によりニンジン等を導入した農業者の生産力向上に努めました。

水田農業の担い手確保を推進するため、築上町営農組織の実態調査を行い、オペレーター等の不足が深刻であると判断された5組織について、重点的な支援を行いました。

この他、集落営農組織と大規模担い手農業者との連携を模索し、町内の大規模担い手農業者に対して意向調査を行いました。

■主な成果

園芸品目の転換では、栽培希望者説明会で推進した結果、経営モデル3品目を4戸の農業者が導入しました。

4つの集落営農組織において大規模水田農業者との連携や地域コミュニティ活動などで担い手確保ができました。

築上町、JA、普及指導センターが町内外の大規模担い手農業者に作業受託等のヒアリングを行い、危機型組織をサポートするための体制を整備しました。

■今後の取組

ニンジン、白ネギ、ホオズキは、既存生産者の規模拡大や新規生産者確保および技術力向上に取り組めます。また、築上町内に残されたオペレーター等が不足している組織を含め、京築管内の他市町でも、集落営農組織の担い手確保を支援するとともに、JAを中心とした引き受け手のない農地の受け皿となる担い手支援組織の設立に向けて、検討チームを中心とした支援を継続していきます。



栽培希望者説明会



大規模担い手調査

(園芸畜産課、地域振興課)

需要に応じた転作作物の安定生産

■課題化の背景

京築地域では、硬質小麦やビール大麦の品種転換があったため、栽培技術の確立による収量・品質の確保が求められていました。大豆では平均単収が県平均と比べ低く、適期播種、難防除雑草対策等が課題です。さらに、新規需要米（飼料用米、米粉用米）ではイネカメムシの多発で大きく減収し、収量向上が急務となっていました。そのため、令和4年度から3年間、麦類、大豆および新規需要米の収量・品質向上対策を重点的に取り組みました。

■活動内容

1 麦類の収量・品質向上

タンパク質含有率確保のため、麦踏み等の栽培管理徹底による生育量確保と、穂揃い期追肥の適期施用を指導しました。

6年産ではコムギ黄斑病が多発し大きな問題となりましたが、JA福岡京築麦作部会と連携して対策を検討し、暦に防除体系を追加し、次年産の対策につなげました。

2 大豆の収量・品質向上

部分浅耕一工程播種技術の普及を図って適期播種を推進しました。また、大豆づくりに意欲のある9経営体に対し、栽培上の課題を整理し、対策を立てて実践まで支援を行いました。

3 新規需要米（飼料用米・米粉用米）の収量向上

低収要因の解析を行い、移植の遅れとイネカメムシ対策が課題であることを明らかにしたうえで、適期移植の推進とイネカメムシ防除の指導により収量向上を支援しました。

■主な成果

1 麦類の収量・品質向上

硬質小麦生産者のうちタンパク質含有率12.0%を達成したのは88.5%となり、当初の33%から大きく改善することができました。

2 大豆の収量・品質向上

梅雨の大雨と梅雨明けが遅れた影響で播種ができず、適期播種割合は10%に留まりました。作業目標を立てて実践し、収量向上につながった経営体は7経営体でした。

3 新規需要米（飼料用米・米粉用米）の収量向上

イネカメムシの発生状況と防除対策についてJAのLINEを活用して迅速な情報提供を図ったほか、地区別講習会を開催したことで防除面積が拡大し、被害が抑えられました。



麦ほ場での現地指導

■今後の取組

今後も、麦のタンパク質含有率の向上や大豆の適期播種の推進など、転作作物の安定生産に向けた支援を行っていきます。

(地域振興課 水田農業係)

1 普及活動の主な成果

夏秋ナスの担い手と生産力強化

■課題化の背景

J A福岡京築夏秋ナス部会は、毎年新規栽培者が加入する一方で、篤農家の引退に伴う技術力低下が危ぶまれています。また、栽培品種も「大豊」から「筑陽」に変更されてから年数が浅く、収量を確保する技術の普及が課題となっていました。そこで、担い手の早期技術向上と「筑陽」に合わせた栽培方法の普及を目的とした活動に取り組みました。

■活動内容

1 新規栽培者の技術向上

今後、担い手となる新規栽培者を対象に個別面談を実施し、目標単収達成に必要な対策を洗い出しました。併せて、個別巡回指導および高収量者ほ場での現地講習会により、早期技術力向上に向けた支援を行いました。

2 「筑陽」に合わせた栽培管理方法の確立

高収量確保に必要な情報をまとめた京築版「筑陽」栽培の手引き及び要点となる管理を抽出したチェックリストを作成し、部会員に共有しました。併せて、「筑陽」で高収量を上げた生産者の技術を研修会で共有し、部会全体のレベルアップを図りました。



現地講習会の様子



研修会の様子

■主な成果

1 新規栽培者の技術向上

個別巡回により目標単収達成に必要な対策を指導したことで、9名の新規栽培者が目標単収を達成しました。また、6名の新規栽培者が部会内でも高水準の7t/10a以上の単収を上げました。

2 「筑陽」に合わせた栽培管理方法の確立

部会員自身が栽培の手引きやチェックリストを活用したことにより、草勢に応じた管理ができるようになりました。また、高収量者の技術を普及することにより、課題となっていた収穫最盛期後の草勢も維持され、収穫量を向上させることができました。

■今後の取組

普及指導センターでは、今後も担い手の早期技術力向上や産地の維持・拡大に向け、継続的に支援します。

(園芸畜産課 野菜係)

京築特産果樹の樹勢改善による収量向上

■課題化の背景

京築特産果樹のイチジクやキウイフルーツ「甘うい」は、老木化による樹勢の低下や排水不良、粘土質で硬い土壌条件により低収が課題となっていました。そこで、低収要因に応じた樹勢改善対策に取り組みました。

■活動内容

1 樹勢回復方法の周知

重要な栽培管理のポイント時期毎に現地で栽培講習会を行い、病虫害対策や排水対策、土壌改良方法、せん定方法等についての情報共有を図りました。

また、イチジクでは生産者毎に樹勢低下の原因をまとめた個別カルテを作成し、巡回指導を行いました。

2 土壌改良に関する実証ほの設置

イチジクとキウイフルーツ園地それぞれでアースオーガーを用いた堆肥施用試験や土壌改良資材の試験を行いました。



キウイフルーツ現地指導



アースオーガーを用いた堆肥施用

■主な成果

実証ほの結果を講習会で共有したことで、土壌改良に取り組む農家が増加しました。また、イチジクとキウイフルーツだけでなくナシやカキといった他の品目にも土壌改良の取組が広がりました。

■今後の取組

近年、異常気象が多く発生しており、特に今年度は果実の小玉化や生理障害の発生など高温・乾燥の影響を大きく受けた年となりました。安定した果実生産を行うためにも、今後は気候変動対策に取り組んでいきます。

(園芸畜産課 果樹係)

1 普及活動の主な成果

ケイトウの生産振興 —収穫率向上技術の確立—

■課題化の背景

京築地域ではケイトウの生産が盛んであり、県内一の産地ですが、近年、出荷本数が年々減少しています。これは、従来の収穫方法が多大な作業時間を要していたことに加え、近年の猛暑により収穫可能な時間が減少し、お盆の需要期に向けた短期間の集荷時期に収穫が間に合わないことが原因となっています。

そこで、出荷本数の回復に向け、導入が容易な収穫効率の向上を図る技術を検討しました。

■活動内容

1 ケイ酸資材の施用によるケイトウ収穫時期斉一化の検討

ケイトウでは茎が硬化した花から収穫しますが、硬化のタイミングがバラつきやすく、非効率な収穫の原因となっていました。そこで、ケイ酸資材の施用により茎の硬化タイミングの斉一化を図りました。

2 ヘッジトリマーによるケイトウ一斉収穫法の検討

ケイトウでは、茎が硬化した花を探りながら一本ずつ切って収穫するため、1日あたりの収穫本数が少なく、切り残しが発生する原因となっていました。そこで、その日の出荷計画分のみをヘッジトリマーで一度に収穫する一斉収穫法を検討し、その作業性の調査を行いました。

■主な成果

ケイ酸資材の施用効果については、茎の硬化が確認され、ケイ酸資材による収穫時期の斉一化は有効である可能性が考えられました。

ヘッジトリマーによる一斉収穫法は、従来の方法と比較して収穫効率が約7倍に向上したことで、暑い外作業時間を削減することができました。

以上の結果を反省会や巡回で生産者へ共有したところ、4名が次年度から一斉収穫法を導入する見込みです。



ヘッジトリマーによるケイトウ一斉収穫試験



ケイトウ出荷反省会

■今後の取組

ケイトウ一斉収穫法の導入にあたっては、調製作業を効率化するために均一な草丈にすることが必要であることから、引き続き現地指導を徹底するとともに、定植、調製作業についても省力化を検討し、ケイトウ産地のさらなる発展を支援します。

(園芸畜産課 花き畜産係)

畜産経営の安定化

■課題化の背景

現在の畜産情勢は、国際的な飼料価格の上昇や肉用子牛価格の暴落等、大変激しい変化にさらされています。その中で、畜産経営を安定させるため、生産者毎の課題解決による事故廃用率減少と繁殖成績向上や、低コスト飼料の確保と有効活用への支援が求められています。

■活動内容

生産者ごとに課題となっていた環境改善や、周産期を中心とする飼養管理の改善に加え、自給飼料を適切に利用した飼料給与により事故廃用率の低下と繁殖成績の向上を図りました。

また、新たにWCS用稲や子実用とうもろこしの栽培に取り組む生産者への栽培技術支援や生産者間の連携支援により、新たな自給飼料生産利用体制の構築を図りました。

■主な成果

飼養環境や衛生プログラムの改善を支援し、子牛の事故廃用率は減少傾向にあります。

また、定期的な繁殖検診の実施により、繁殖成績も向上しています。

このほか、大型機械の導入により省力化された高糖分高消化性WCS用稲の栽培や、自給粗飼料や飼料用米・子実用とうもろこしといった自給濃厚飼料の牛や鶏への有効利用等、新たに6か所の自給飼料の生産利用体制を構築しました。



定期的な繁殖検診の実施



WCS用稲の収穫

■今後の取組

引き続き関係機関と共に、各生産者の課題や方向性の把握と共有を進め、有効な改善提案を行うことで、畜産経営の安定化を図っていきます。

(園芸畜産課 花き畜産係、地域振興課 水田農業係)

2 管内の動き（トピックス）

京築地域で初の県認定トレーニングファームを整備

就農希望者が、就農準備資金の交付を受けるためには、県の認定を受けた研修機関で研修を受講することが必要です。

京築地域には、これまで県認定研修機関がなく、就農希望者が就農準備資金を受給するためには、農業大学校で研修を受講する必要がありました。

このため、普及指導センターでは、JAや市町等の関係機関と連携し、京築地域の県認定研修機関（トレーニングファーム）を令和6年11月に設立しました。

また、トレーニングファームの設立にあたり、受入先となる農業者と関係機関で他県の事例を視察し、研修生受入れ後の実技指導に係るノウハウを習得しました。

現在、研修対象品目は、イチゴと果樹（イチジク、モモ）に限定していますが、今後は、受講可能な品目を増加させることなどにより、研修体制を充実させていきます。



先進地事例調査（大分県）

JA福岡京築麦作部会および大豆部会が設立

管内には麦が約1,900ha、大豆は約800ha栽培され、どちらも県内の栽培面積の1割を担う重要な産地です。近年は気候変動や需要に応えるための品種転換などの諸問題が山積しており、これらの課題に対応するため、令和6年4月にJA福岡京築麦作部会、6年5月にJA福岡京築大豆部会が設立されました。また、本年度は部会として栽培前や栽培期間中に講習会を開催したほか、部会役員による現地巡回や新品种の展示ほの視察を行いました。



大豆新品种「ふくよかまる」の展示ほを見学する部会役員

今後は部会活動を強化し、関係機関と協力しながら麦大豆の収量・品質向上による農業者の所得向上を目指していきます。

■ ニンジンの大規模栽培を推進

「ニンジン」は機械利用による省力栽培が可能であり、かつ加工用の需要も見込めるため、大規模化の品目として有望です。そこで、加工用ニンジンの生産拡大を図るため、機械化一貫体系の実証栽培に取り組みました。

管内の3経営体、合計1.2haの面積で、畝立て・播種作業や収穫、洗浄まで機械化体系の作業確認を行うとともに、今後の生産量の増大を見越し、加工用出荷規格の目合わせ資料の作成を行いました。

今後、本年の結果を関係機関と協議し、面積拡大へと繋げていきます。



ニンジンの播種状況を確認する生産者

■ 県産キウイフルーツ花粉の県内自給率向上に向けて

株式会社ふるさぼ新田原が県からの委託により、県産キウイフルーツ花粉生産モデル確立に向けた取組に着手しました。

京築管内では、県育成品種「甘うい」の導入と併せて、花粉生産用の雄木園を整備していることやキウイフルーツの深刻な病害であるかいよう病が未発生であることからモデル地域に選ばれました。

本年度はアイカメラを用いて花粉精選の作業内容や作業時間の調査・分析を行い、動画マニュアルを作成しました。

次年度以降も、低コストで高品質な花粉の安定生産を目指して取組を続けます。



採薬作業の様子

2 管内の動き（トピックス）

■ホオズキにおける病害対策の取組

京築管内のホオズキは、みやこ町犀川地区および築上町を中心に栽培されており、栽培面積は2.2haと県内一の産地です。近年、タバコ微斑モザイクウイルスの感染を原因とする葉のモザイク症状の発生が一部のほ場で問題となっています。

このタバコ微斑モザイクウイルス病は、糸状菌や細菌による病気と異なり、農薬による防除が困難です。

本ウイルス病の対策については、国の試験場が弱毒ウイルスを接種したワクチンホオズキの導入が有効であると報告しており、JA福岡京築花卉部会および犀川花卉部会では、このワクチンホオズキの導入および生産拡大に取り組んでいます。

今年度の1月、JA福岡京築花卉部会では、部会員2名のほ場で増殖したワクチンホオズキの地下茎の掘上げおよび配布を行い、犀川花卉部会と併せたワクチンホオズキ導入農家の割合は、約80%に達しました。

来年度も、タバコ微斑モザイクウイルス病の発生軽減を図るため、ワクチンホオズキ導入農家割合100%を目標に活動を行っていきます。



着色期を迎えたワクチンホオズキ

課題名	結果の概要	部門	担当者
経営環境の変化に伴う新品目導入の効果と課題の検討	管内の露地野菜の基幹品目であるレタスの代替品目として、加工用ニンジン栽培実証及び経営試算をおこなった結果、経営改善が見込まれ、代替品目として有効であることが確認できた。	地域	吉田
京築地域の主な園芸品目における労働時間調査と作業細分化の検討	作業が集中する収穫・調製に絞る作業の細分化を行い、短期労働力活用が可能なポイントを明らかにすることができた。イチジクの調製作業では高い習熟度が必要で短期労働力の活用が困難であるのに対し、白ねぎとホオズキはほぼ全ての作業で活用可能であった。	地域 果樹	安藤 大蔭
京築地域の大豆ほ場で問題となっている雑草の実態とツユクサ防除対策の検討	管内の大豆栽培で問題となっている雑草をマップ化し、地域ごとに問題となっている草種に違いがあることが可視化できた。また、蔓延しているツユクサについて防除の検討を行ったが、播種後にはほぼ降雨がなく、ほ場が過乾燥となったため、対象雑草がほとんど発生せず、防除効果は判然としなかった。	水田	野見山 安武
直売所の端境期出荷野菜の栽培実証	直売所出荷用のハウレンソウ栽培（4月出荷）の試験として3品種を検討した結果、草高と株重からみてタフスカイが有望であった。クローネ法蓮草は抽苔し、不適であった。	野菜	佐伯
エトフェンブロックスを処理した防虫ネットのアザミウマ類の発生およびハウス内温度に及ぼす影響	ハウス栽培の青ネギにおいて、防虫ネットの違いによるアザミウマ数を調査した。青ネギの葉身におけるアザミウマ類の寄生虫数は、本試験の防虫ネットが慣行より最大で57%減少した。	野菜	宇都
冬春ブロッコリー定植後の乾燥による枯死・生育遅延対策資材の検討	定植直後に一定量の降雨があり、慣行に比べて生育が同等または劣ったことから、乾燥対策効果は判然とせず、適湿条件下では生育を抑制する可能性が示唆された。	野菜	田中
衛星画像を活用したスイートコーンにおける生育状況の把握	スイートコーンにおいて、衛星画像を活用して生育状況等の把握を試みた。衛星画像と草丈の結果が一致していたが、生理障害の発生を予測することはできなかった。大規模作付けの作業指標として使用できると考えられる。	野菜	太田
キウイフルーツの花粉精製における作業ポイントの整理	作業ポイントを整理し、手順動画を作成した。紙マニュアルに比べて動画は作業の流れや手順が分かりやすい一方、精選機にかける時間などの数値はすぐに覚えられないため、紙でも記載する等使い分けが必要。	果樹	久原
ケイトウ収穫効率向上に向けた一斉収穫法の確立	ケイ酸資材によるケイトウの収穫時期一斉効果、ヘッジトリマーによる収穫作業効率化の検証を行った。ケイ酸資材の施用により茎の硬化が確認された。ヘッジトリマーによる収穫作業の効率は従来の約7倍であった。草丈を一斉化する技術が課題となった。	花き	高田
施設ホオズキ栽培における労働時間、収益性の調査	地下茎由来のセルトレイ育苗苗をハウス内で栽培するためのマニュアルを作成した。作業項目別労働時間の合計は約400時間であった。露地栽培より病害の発生リスクが低く出荷本数の増加が見込まれ、施設の減価償却費を考慮した所得率は約30%である。	花き	巢山
自給飼料作業コストの調査・検討	畜産において生産コストを低減するため、自給飼料生産・利用の拡大を推進している。管内では収穫・調製作業受委託の取組があるが、人件費や諸材料費等が高騰していることから、コスト調査を実施し、最適な自給飼料生産体制を検討する材料とした。	畜産	堀田

品目	課題名	結果の概要	設置場所
水稲	水稲奨励品種決定現地調査	新系統「ちくし102号」と「ちくし105号」の中山間地における現地栽培試験を行った。両系統とも対照の「夢つくし」と比べ出穂期及び成熟期が早かった。収量は両系統とも「夢つくし」と比べやや低かったが、「夢つくし」より白未熟粒が少なく品質は良好であった。	豊前市
大豆	大豆新品種「ふくよかまる」の現地適応性の検討	県農林業総合試験場が育成した新品種「ふくよかまる」の試験栽培を行った。既存品種「フクユタカ」と比べ最下着莢高が高く、粒が大きく、現地適応性があることがわかった。	行橋市
飼料用米	飼料用米のイネカメムシの防除体系の確立	散布機のいない「スタークル豆つぶ」を用いたイネカメムシ防除効果を調査した。豆つぶ散布区とスタークル液剤散布区を比較したところ、不稔率は同等であった。スタークル豆つぶは液剤防除と同等の不稔防止効果があると考えられる。	荻田町
イチゴ	イチゴにおける赤色LEDを活用したアザミウマ類の忌避効果について	赤色LEDを活用したアザミウマ類の忌避効果について検討した。慣行区に比べてアザミウマ類の虫数ならびに被害果が抑制された。	行橋市
アブラナ科	アブラナ科に対する緑肥を活用した根こぶ病の軽減効果について	近年、アブラナ科植物の連作により根こぶ病の発生が増加してきているため、緑肥の活用による根こぶ病の軽減効果について検討した。根こぶ病の発生が抑制されることが明らかになった。	豊前市
白ネギ	緑肥を活用した雑草抑制と減肥効果	緑肥による雑草抑制と減肥の効果を検討した。緑肥区が対照区に比べ、雑草抑制効果が見られ、基肥の削減が可能となった。	築上町
イチジク	イチジク株枯病抵抗性台木「励広台1号」の現地適応性調査	既存の株枯病抵抗性台木と比較して生育に問題が無かったことから、「励広台1号」の導入は可能である。	行橋市
キウイフルーツ	キウイフルーツ「甘うい」の樹勢強化に向けた追肥量の検討	6月の追肥で慣行の2倍量を施用すると葉色が改善され剪定後の樹冠面積が拡大されたことから、次年度の収量向上が見込める。	行橋市
カキ	低樹高ジョイント栽培における「秋王」の灰色かび病対策	速乾性があり農薬が広がりやすい展着剤を加用した殺菌剤を使用した。灰色かび病が発生する開花期～落弁期で少雨・乾燥傾向であったことから展着剤の効果は判然としなかった。	行橋市
ケイトウ	ケイトウ収穫効率向上に向けたケイ酸資材施用効果の検証	「けい酸加里」、「バリカタ！」の施用による収穫時期の斉一効果を検証した。「バリカタ！」の施用により、茎の硬化が確認され、収穫時期の斉一化が可能であると考えられた。	上毛町 吉富町
ホオズキ	施設ホオズキ栽培マニュアルの作成	2月に地下茎をセルトレイに挿し、無加温の育苗ハウスで養成した苗を4月上旬にハウス内に定植し、8月上旬に出荷する施設栽培体系の実証を行った。病虫害防除暦を含む栽培マニュアルを作成した。	みやこ町 築上町
畜産	自給飼料高栄養化を目指した新しい牧草草種の実証	自給飼料の高栄養化による生産性向上を図るため、新たな牧草種「ペレニアルライグラス」「ハイブリッドライグラス」を実証した。両草種とも栄養収量が高く、収穫期を分散させる新草種として期待できると考えられた。	行橋市

表彰事業名・受賞名	受賞者氏名・組織名	市町村名
公益社団法人大日本農会 令和6年度農事功績者表彰 緑白綬有功章	有限会社松木果樹園 松木 実	みやこ町
第24回福岡県農林水産まつり 農林水産賞（地域団体部門 名誉賞）	株式会社ふるさぼ新田原	行橋市
第24回福岡県農林水産まつり 農林水産賞（園芸部門 優秀賞）	永沼 加奈子	みやこ町
令和6年度福岡県麦作共励会 農家の部 優秀賞	大澤 英史	吉富町
令和5年度福岡県大豆作経営改善共進会 集団の部 優良賞	農事組合法人 船迫緑の里	築上町

※令和6年4月から7年2月の期間の表彰事業において表彰を受けた個人および組織

5 各種表彰の紹介（国、県）

緑白綬有功章を受章～みやこ町:松木実氏

有限会社松木果樹園の社長 松木実氏が、令和6年11月14日に公益社団法人大日本農会から緑白綬有功章を授与されました。今回授与された緑白綬有功章は、農業改良の奨励または実行上顕著な功績をあげ、地域農業の発展に貢献するとともに、農業経営で活躍している方が対象で、全国で50名が受章されました。



受章した松木氏

松木氏は、みやこ町でイチジク、ナシ、モモを中心とする果樹栽培とレストラン「えふ」の経営を行っています。完熟堆肥と草生栽培により土壌浸食防止に取り組むとともに、ナシの有袋栽培、モモの黄色防蛾灯など物理的防除により農薬使用量を削減し、環境負荷低減農業に取り組んだ点や、農業高校や県農業大学校等の研修受入れ先となり、非農家から就農者を輩出するなど、新規就農者育成に貢献した点、また、観光農園、直売所、レストランの運営により、地域の雇用を創出した点が高く評価されました。

「農林水産まつり」で表彰～行橋市:株式会社ふるさぼ新田原、みやこ町:永沼加奈子氏

令和6年11月2日にアクロス福岡で開催された第24回福岡県農林水産まつりにおいて、当管内から株式会社ふるさぼ新田原と永沼加奈子氏が県農林水産賞を受賞しました。

株式会社ふるさぼ新田原は、JA福岡京築新田原果樹部会の有志が設立した法人で、作業受託による高齢者等の果樹栽培継続支援や、新規就農者への技術指導も行い、行橋市新田原地域の果樹産地維持に取り組んでいます。これらの取組が評価され、地域集団部門名誉賞を受賞しました。

永沼加奈子氏は、長年、みやこ町でイチゴや水稻を栽培しており、過去には農業委員として地元の産地振興に尽力した実績があります。現在も指導農業士として、県内トップレベルの生産者と積極的な情報共有を図り、自己の農業経営だけでなく、周囲への貢献度の高さが評価され、園芸部門優秀賞を受賞しました。



受賞を喜ぶ（株）ふるさぼ新田原と永沼加奈子氏

令和6年度福岡県麦作共励会で吉富町の大澤英史氏が優秀賞を受賞

吉富町の大澤英史氏が、令和6年度福岡県麦作共励会農家の部で優秀賞を受賞しました。本共励会は、麦の生産振興を図るため、生産技術や経営面に創意工夫を持ち、先進的で他の模範となる経営体を表彰する目的で毎年開催されています。



表彰される大澤氏（写真右）

大澤氏は、天候とほ場の状況をこまめに確認し、適期播種等の基本的な管理作業を徹底していることと、ドローン等を活用した省力化体系にも取り組んで高収量・高品質を達成されました。また、荒廃農地を再生する活動にも取り組んでおり、地域農業の維持に大きく貢献している点も評価されました。

令和5年度福岡県大豆作経営改善共進会で築上町の

農事組合法人船迫緑の里が優良賞を受賞

築上町の農事組合法人船迫緑の里が、福岡県大豆作経営改善共進会集団の部で優良賞を受賞しました。

本共進会は、大豆の生産振興を図るため、生産技術及び経営改善の面から先進的で他の範となる経営体を表彰する目的で毎年開催されています。

同法人は、ほ場が粘土質の赤土で排水不良かつ地力が低い不利な土地条件にもかかわらず、周囲溝の施工や溝を鍬でさらえる等の排水対策を徹底し、雑草の発生を抑えるために1畝3条で播種を行ったほか基本的な管理作業を徹底して高収量・高品質を達成されました。また、地域の農地の受け皿となって耕作放棄地を発生させない役割を果たしていること等も評価されました。



受賞を喜ぶ農事組合法人 船迫緑の里

6 参考資料

(1) 令和6年の気象および農業生産の概要

■気象概況

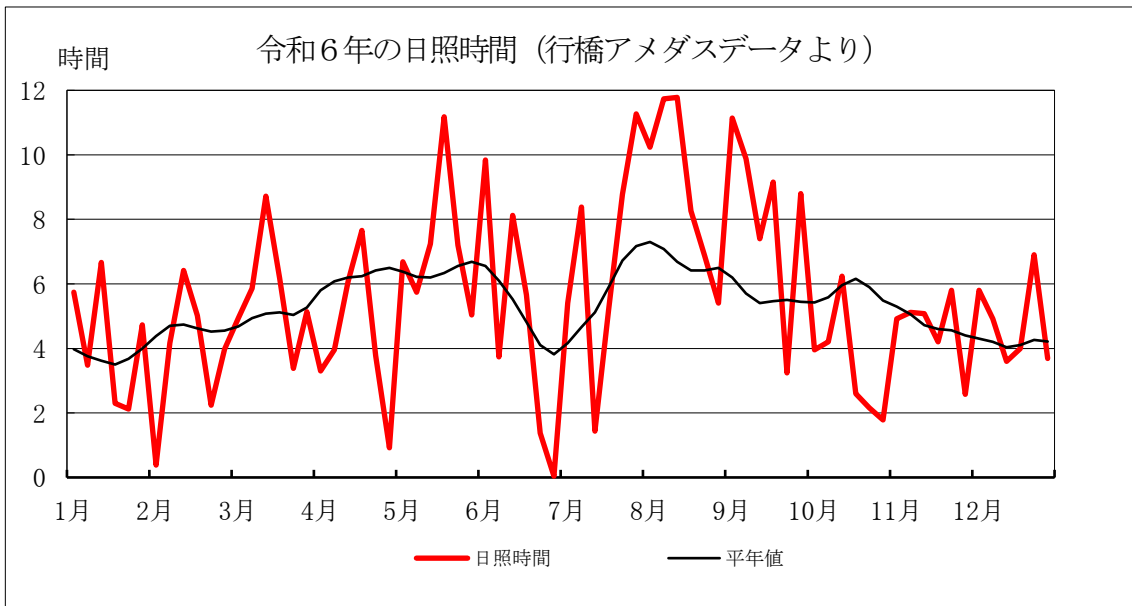
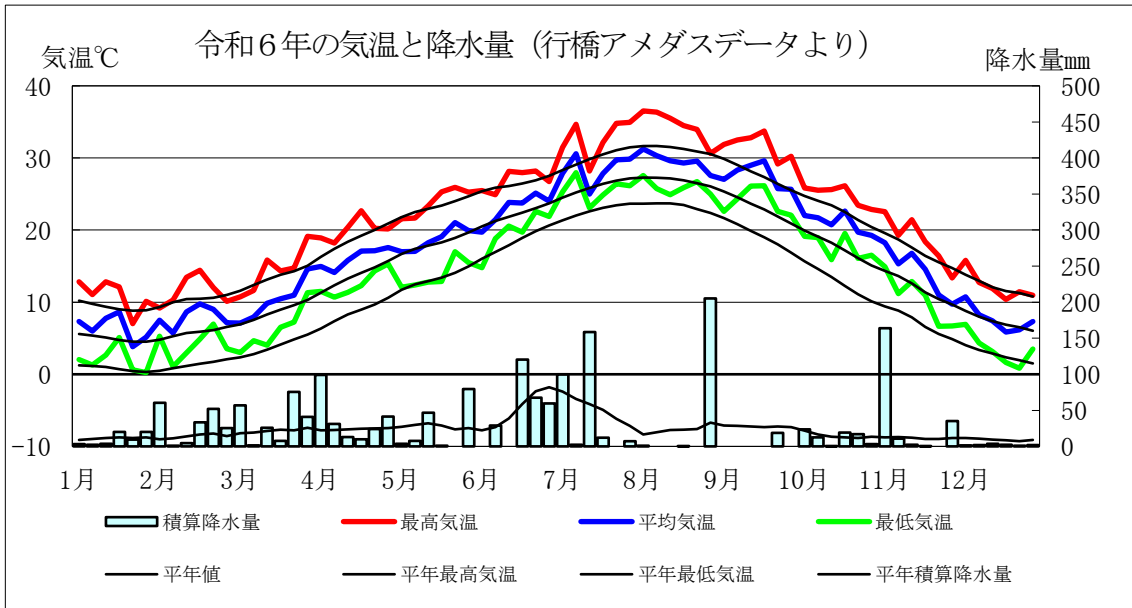
1月～2月の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は平年より多かった。

3月～4月の平均気温は平年よりかなり高く、降水量も平年よりかなり多かった。

5～6月の平均気温は平年並か平年より高く、降水量は平年並となった。

梅雨入りは6月17日頃（平年より13日遅い）、梅雨明けは7月17日頃（平年より2日早い）となった。

7～10月の平均気温は平年よりかなり高くなった。8～9月の降水量は平年よりかなり少なくなったが、台風により8月下旬の降水量は平年よりかなり多くなった。11月上・中旬の平均気温は平年より高くなった。



■主な品目の生産概要

普通作

○ 水稲

早期水稲の移植は4月5日頃から始まり、5月4日頃が最盛期であった。移植後は気温も高く活着良好で、平年並みの生育となった。気温は平年より高く、出穂期は平年よりやや早かった。出穂期以降は、高温多照で経過し、成熟期は平年より早かった。平年と比べ稈長及び穂長は短く、穂数は少なく、収量は低かった。品質は、防除の徹底によりイネカメムシの加害は低下したものの、高温により白未熟粒が多発した。

普通期水稲の移植は、6月1日頃が最盛期となった。移植後の活着は良好であったが、7月以降が高温で経過したため草丈はやや低く、茎数は平年より少なく、出穂期は平年より早くなった。出穂期以降は高温多照で経過したため、成熟期は平年より早かった。平年と比べ穂長は短く、穂数は少なかった。出穂期頃に降雨がなく、35℃以上の日が連続したことで高温による不稔が発生し、収量は平年より低かった。品質は、いずれの品種でも白未熟粒の発生が前年より多かった。

○ 麦（令和6年産）

播種は令和5年11月初旬から始まり、降雨も少なく作業が順調に進み、12月末時点でほぼ完了した。1～4月の降水量は平年比160%と非常に多く、麦踏み等の管理作業は十分にできなかった。2月以降の多雨で湿害と肥料の流亡が発生して生育不良となり、草丈は平年並み～やや短く、茎数は少なかった。また、生育期間を通して気温が高かった影響で生育が前進し、茎立ち期、出穂期とも平年より7～10日程度早かった。成熟期も平年よりやや早かった。多雨による穂数の減少、オオムギ網斑病やコムギ黄斑病等の多発で子実は充実不足となり、収量は平年より低かった。

○ 大豆

7月7日頃から播種作業が始まったが、雨天が続き適期の7月20日までに播種できたほ場は全体の10%であった。梅雨明け以降は高温少雨で経過し、ほ場は過乾燥となり大豆は著しい生育不良となった。一部では過乾燥による発芽不良や枯死も発生した。生育不良もあり開花期はやや遅かった。8月末に襲来した台風10号により一部で倒伏や落花、枯死が発生した。ハスモンヨトウやカメムシ類といった害虫の発生が多く、全域で例年にないほどの被害が出た。主茎長及び最下着莢高は平年より低く、莢数は少なかった。平年より遅い11月上旬から落葉が始まり、収穫は11月20日以降となった。また、過乾燥による生育不良及びカメムシ類等の多発で青立ち株が例年より多く発生した。収量は前年より大きく下がり、大粒比率及び1等比率は前年より低下した。

野菜

○ イチゴ

令和6年度産については、4月上・下旬の曇天の影響により、ランナーの発生は例年並～やや遅く、5月上・中旬の乾燥傾向で伸長が鈍かった。苗の切り離し後に断続的な降雨や7月上旬の高温の影響により、生育の停滞や根傷みの発生が見られた。また、炭疽病の発生は例年よりも早く、台風や高温等による株の消耗により本ば定植後の枯死が多く見られた。早期作型は花芽分化が順調であったため、定植は順調に行われた。さらに、10月上旬以降も平年よりも気温が高く推移したため、生育が早く、収穫開始も早まった。普通促成については、9月下旬の夜温が高く、花芽分化が遅れたため、定植が遅れた。

6 参考資料

○ レタス

育苗については、8月下旬の台風襲来により、ハウスの締め込み又は施設内への格納作業を行ったため、一部作型で徒長が見られたが、全体的には順調な生育となった。

定植は、早い作型から降雨が少なかったことから、ほ場準備も含め順調に行われた。

定植後の生育は、かん水や畝間かん水を十分に行ったほ場では、活着が良好で生育も順調であった。10月以降は定期的な降雨と高温により、全体的に生育が前進した。

収穫は10月中旬頃から開始し、共販出荷を11月上旬からスタートした。サイズについてはL、2L中心となった。また、8月下旬以降気温が高かったことから、早い作型ではタコ足病が発生した。

病害虫については、9月中旬頃からハスモンヨトウなどのチョウ目類が多発したため被害が増加し、11月まで被害が見られた。

○ スイートコーン

一用品種で播種後の低温により発芽不良が見られた。定植は概ね順調に行われたが、3月下旬から4月上旬の降雨が多かったため、4型では定植が遅れた。1型では定植直後の霜の影響で苗の枯死や生育不良が見られた。3月から4月にかけて気温が平年より高くトンネル内も高温となったことから、トンネル除去が遅れたほ場では花芽の分化異常や葉の焼け、その後の生育不良が見られた。出荷開始の規格は、L、2L中心となった。病害虫に関してはアワノメイガやアブラムシ類、カメムシ類の発生が多かった。

○ 夏秋なす

4～5月の降雨により、排水の良いほ場以外は定植が5月上中旬まで遅れたが、液肥・発根促進剤の施用により活着と定植後の生育を確保した。梅雨入り以降、長雨が続き、日照量も激減したが、液肥の葉面散布、防除、明渠の手直しを徹底したため、草勢低下と褐紋病の発生はあったものの、顕著ではなかった。梅雨明け後は少量追肥と発根促進剤の葉面散布を行い、気温の上昇と日照量が確保されたこともあり、草勢は順調に回復した。収穫最盛期となる8月は平年以上の高温・乾燥によるボケ果、草勢の急上昇による青ベタ果の発生により収穫量は伸び悩んだ。8月29日には台風10号の接近により、草勢が低下したため、葉数の確保、液肥の葉面散布を実施したが収穫量は減少した。

果樹

○ イチジク

発芽はおおむね前年並となった。梅雨明け以降の好天により廃棄が少なく、品質は良好であったが、高温・乾燥の影響により全体的に小玉となった。

○ モモ

開花前に気温が下がったことで満開期は前年よりやや遅くなったものの、高温傾向が続いたため、収穫は昨年よりやや早くなった。中晩生品種では、高温・乾燥の影響によりしわ果や梅雨時期の急激な降雨により裂果が発生した。

○ キウイフルーツ

発芽～開花は前年よりやや早く進んだ。着果量は前年並みであったが、少雨による乾燥のため摘果が不十分だった園では小玉となった。9月以降も高温が続いたため、低糖度果が発生した。

○ ナシ

満開期は昨年よりやや遅かったものの、収穫は昨年よりやや早くなった。生育期間を通して降水量が少なかったため、全体的に小玉となった。台風や高温・乾燥の影響により落果や日焼けが発生した。

○ カキ

生育はおおむね前年並みに進んだ。生理落果は少なかったものの、夏期の高温・乾燥により日焼けが多発し、果実が軟化した。収穫期になっても気温が下がらず、着色遅れとなった。カメムシの発生が多く、被害果が多発した。

花き

○ ホオズキ

生育初期（4月）は、気温が高く生育は順調であったが、生育中期（5月～6月中旬）になると1週間程度降雨のない期間があり、ほ場によっては草丈の伸長が抑えられた。7月は記録的な猛暑となり、高温による実の着色不良が一部の園地で起きた。病害虫については、斑点細菌病や軟腐病等が一部で発生し、ダニの被害も梅雨明け後に発生した。実の着色不良や病害虫の発生により、上位等階級品の割合が昨年よりも減少した。

○ ケイトウ

J A共同育苗により良質苗が供給された。8月出荷作型は3回に分けて播種が行われ、定植は例年通り5月下旬から6月上旬に完了した。本年は生育期間を通して気温が高かったことに加え、生育初期～中期は降雨量が多く、ケイトウの生育に適した気候となった。そのため、定植直後から生育中期まで順調な生育が見られた。発蕾時期も例年通りとなった。しかし生育後期は高温・乾燥となり、草丈の伸長不足が一部で見られたが、出荷時期には問題なく収穫でき、品質も良好であった。

○ キク

主要な盆だし作型では、生育期前半は日照に恵まれ生育は概ね順調であった。しかし、花芽分化・発達期にあたる7月以降は記録的な猛暑となり、高温による開花遅延が発生した。彼岸出し作型でも、8月以降も続いた高温の影響により開花が遅延した。病害虫については、クロゲハナアザミウマや褐斑病、斑点細菌病の被害が複数のほ場で観察された。今年度は、開花遅延や病害虫被害の問題はあったものの、市場での引き合いが強く、高単価（60円/本）で販売された。

○ シンテツポウユリ

育苗は例年通り、山口県「花の海」へ委託された。定植は4月下旬の適期に行われた。生育初期は例年より気温が高く、断続的な降雨が多かったため、葉焼けが少なく順調な初期生育となったが、抽苔が例年よりばらついた。6月下旬では草丈が順調に伸長したが、高温により発蕾のタイミングがやや遅れ気味となり、夕方の散水や畝間かん水による高温対策が取られた。収穫時期は7月下旬～8月中旬までと例年よりもばらついた傾向にあった。輪数は3～5輪の花が多く品質は良好であった。

畜産

○ 酪農

前年中途に酪農家戸数が13戸から12戸に減少した。前年生乳生産量は前々年に比べ若干の増加であった。

○ 自給飼料

イタリアンライグラス：収穫時の天候不順により収穫できないほ場が多くあったため、収量は平年以下であった。収穫できても刈遅れにより栄養価が低いサイレージとなったものも見られた。

WCS用稲：例年並みの収量を得られた。

6 参考資料

(2) 現地活動情報一覧

No.	情報テーマ	作成月日
1	白ねぎの栽培管理講習会を開催	4月22日
2	夏秋ナス栽培管理講習会を開催	4月25日
3	京築大規模土地利用型農業研究会の総会を開催	5月14日
4	苧田小学校の小学生が大豆について楽しく学ぶ	6月5日
5	令和6年度産盆出しケイトウの定植が完了	6月18日
6	非選択性除草剤の省力散布を実証	6月24日
7	水田の畦畔管理の優良事例を学ぶ	7月6日
8	新規就農者のつどいを開催	7月22日
9	京築大規模土地利用型農業研究会の研修会を開催	7月31日
10	水稻の中間管理講習会を開催	7月31日
11	築上町集落営農組織連絡協議会の勉強会を開催	8月8日
12	令和6年度産ホオズキの出荷開始	8月9日
13	築上町農福連携意見交換会を開催	8月13日
14	集落営農組織の人材育成研修会を開催	8月19日
15	JA福岡京築大豆部会が現地研修会を開催	8月19日
16	アスパラガス栽培管理講習会を開催	8月19日
17	ブドウの先進地視察を実施	8月29日
18	京築地区直売所食品衛生・食品表示研修会の開催	9月6日
19	4Hクラブが合同圃場視察を開催	9月13日
20	リンドウの先進地視察研修を開催	10月18日
21	4Hクラブが「京築マルシェ」に出店	10月28日
22	京築大規模土地利用型農業研究会の視察研修会を開催	11月12日
23	JA福岡京築麦作部会が播種前講習会を開催	11月12日
24	吉富町の大規模農家が令和6年度福岡県麦作共励会で優秀賞を受賞	11月12日

No.	情報テーマ	作成月日
25	築上町の農事組合法人船迫緑の里が令和5年度福岡県大豆作経営改善共進会で優良賞を受賞	11月14日
26	土づくり講習会を開催	11月21日
27	女性農村アドバイザー等研修会を開催	11月25日
28	みやこ4Hクラブが産業祭で地元農産物等をPR販売	11月28日
29	みやこ4Hクラブが小倉井筒屋で地元農産物をPR	12月9日
30	水稻の増収に向けた講習会を開催	2月4日
31	労務管理研修会を開催	2月12日
32	トレーニングファーム等の先進地を調査	2月19日
33	麦の収穫向上に向けた現地講習会を開催	2月26日

内容は、福岡県ホームページ「令和6年度京築普及指導センター活動情報」から閲覧できます。

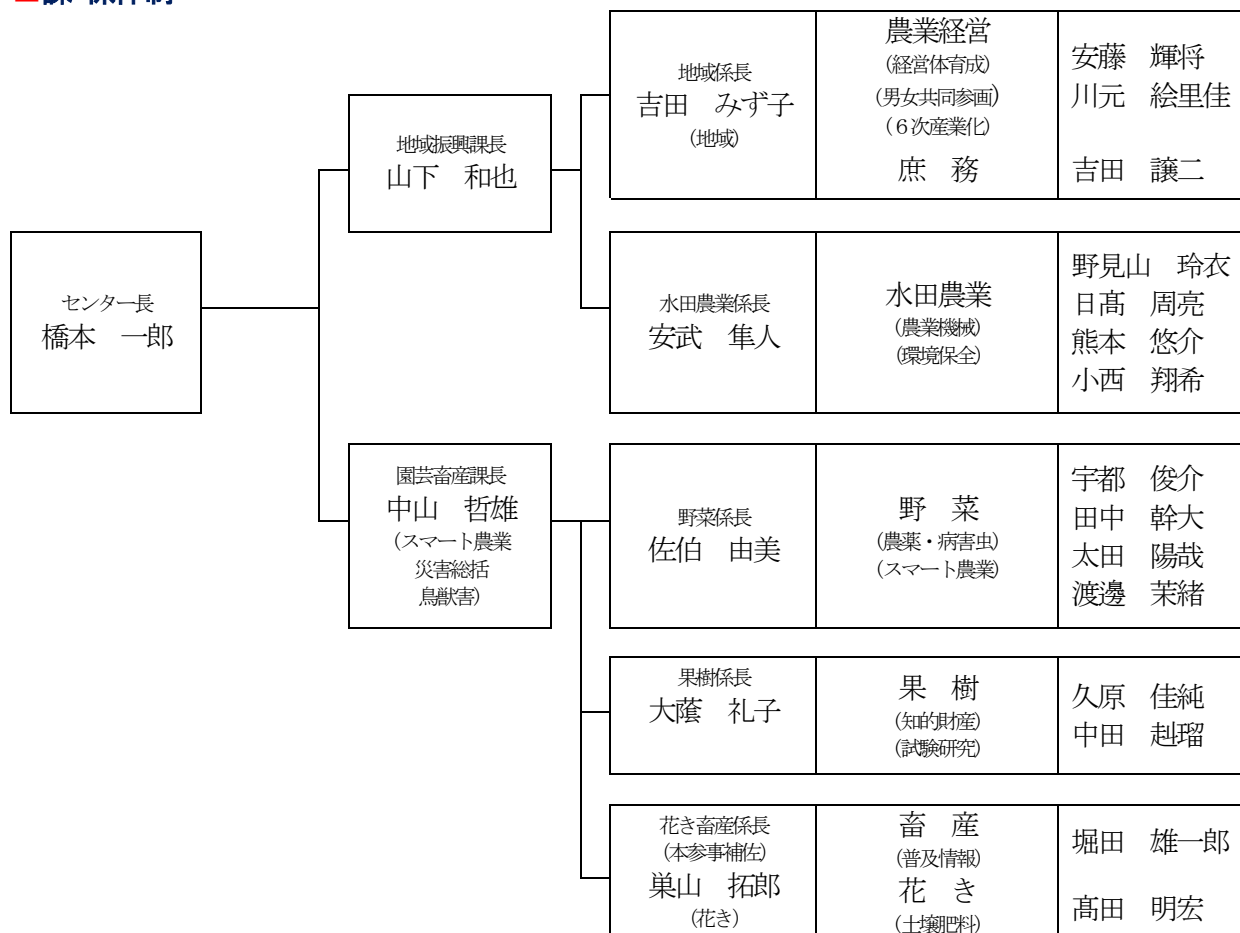
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/6keichiku-katudo-joho.html>



6 参考資料

(3) 普及指導センターの活動体制

■課・係体制



■班活動の体制

○プロジェクト班

担い手確保・育成推進班	総括：山下 推進員：吉田 班員：安藤、川元、安武、佐伯、大蔭、巢山
築上町推進班	総括：中山 推進員：安藤 班員：日高、宇都、久原、巢山

○センター内運営事項における推進班

担い手育成推進班	総括：山下 推進員：吉田 班員：川元、熊本、渡邊、中田、高田
普及情報推進班	総括：中山 推進員：堀田 班員：安藤、野見山、太田、久原
経営体育成推進班	総括：山下 推進員：安藤 班員：中山、吉田、安武、佐伯、大蔭、巢山
環境保全・食の安全推進班	総括：中山 推進員：日高 班員：小西、渡邊、久原

○市町連絡会議等担当班

市町名	課長	地域係	各係・部門
行橋市	山下	川元	必要に応じ、市町連絡会議等の 会議へ参加
豊前市	中山	吉田	
荏田町	山下	川元	
みやこ町	中山	吉田	
吉富町	中山	安藤	
上毛町	中山	吉田	
築上町	中山	安藤	

■普及指導センター職員



熊本

宇都 堀田 太田 田中 安藤 島 高田
 川元 久原 中田 吉田(譲) 小西 野見山 渡邊 日高
 大蔭 巢山 佐伯 中山 橋本 山下 吉田(み) 安武

福岡県行政資料

分類番号 PA	所属コード 4703605
登録年度 06	登録番号 0001



福岡県行橋農林事務所 京築普及指導センター

〒824-0005 福岡県行橋市中央一丁目2番1号

TEL (0930) 23-4215 / FAX (0930) 23-8290

URL <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4705401.html>

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp